院内村に、繩打目錄を與ふ。 六月廿六日。 前田利家の奉行等、 鳳 至 郡 山田

侶不,叶,上洛,之輩者、

於一當山一可、令、成一轉衣一者。天氣所、候

仍執達如,件。

天正十七年六月廿七日

【能登國古文書】

諸橋組山田之內院內御繩打目錄之事

合拾九町八段七畝貳拾壹步七分

右江道堀河曳拾之處打渡如一件。

【總持寺文書】

一九九六

0

天正拾七年六月廿六日 崎末松 在判

但山之年貢者右之外也 矢島彌次郎 神野藤三郎 在判 在判

字野喜兵衛 在判

槙開喜左衛門 在判

百姓

一九九五

世道場たらしめ給ふ。 六月廿七日。後陽成天皇、 鳳至郡總持寺に、 出

【總持寺文書】 鳳至郡

依、為,能州鳳氣至郡櫛比庄諸嶽山總持寺曹洞之本寺、被 補"出世之地」異、子、他者也。彌蒙"勅宣、可、令"出世。若老僧勞

> 六月廿七日 光 微修寺)

在判

基珍重候。於,然者、連署輩悉可,被,致,擯出,儀、急度可,被, 叡聞,候處二被,聞召分、被,成,下綸旨,之段、當寺愈再興之 就,今度永平寺与高札儀、不被相談一之旨被,申入一間、則達

申觸,候。自然違犯之族有,之者、重而注進可,被,申上,候。謹

總持寺五院代 寶圓寺和尙禪室(大選圭徐)

【總持寺文書】

一九九七

今度者歷日在洛依,被,屈,老懷、 理奏之通被」達「叡聞、 綸旨

者、爲,公儀,可,被,仰出,候條、急度可,有,注進。 叡心之趣如 相談揚。高札、連署之逆徒堅可、被,擯出。若不,相隨。輩有、之 頂戴珍重々々。寔以總持寺之再興不」可」如、之。然者永平与

御飛札之趣具披閱、本懷之至候。仍今度於一會津表,被及一一

一九九九

【伊達家文書】 を慫慂す。

處、彼仁之事最前關白様に御禮申上、御存知之儀候。遠國(蘆名義匮)(秀吉) 戰、即刻被屬,一篇,之由、尤珍重候。右通即刻達,上聞,候之

斯候也。 傾首謹言。

大內記爲良 在判

總持寺五院代

圭徐和尚禪室

七月五日。 前田利家、 鳳至郡大澤村定納の租額

被。仰上可然存候間、急与被指,上御使者、候者、彌施藥院・

出候之條、此度之始末樣々御取成申上候。猶以達而御理 付而、以、私宿意、不、止、鬱憤、之事、御不審被、思召、之旨被、仰

富田左近將監令,相談、可,得,御諚,候。不,可,有,御油斷,候

良岳・坂東屋宗有申渡候之條、

不能詳候。恐

を定む。

【能登國古文書】

一九九八

々謹言。

於。樣子一者、

大澤定請之事、本高並に山畑共に六百俵に申定候。 但天正十六年之算用より如此定候也。 無相

違一可,究濟,候也。

七月五日

大澤村百姓中

七月廿一日。前田利家、

伊達政宗に、その葦名

在(前田利家)

天正十七

伊達左京大夫殿

七月廿一日

33

利 筑

家

在判

御返報

(天正十六年四月五日の條參照。)

九月十三日。 前田利家、鹿島郡能登島岩屋村に、

īE -七 年 義廣を討ちたることに就き豐臣秀吉に釋明する

八二五